

金賞

「今も昔もこれからも」

「シジュウカラとともに」

ペンネーム

明け方の群青

市政だよりに福島市民憲章五十周年を記念した特集記事があった。空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。福島市民憲章の一つ目の項目。改めて見直すと、五十年前にも、表情豊かな吾妻山と、そこに見える雄大な空があり、この風景を後世に繋いでいきたい。という想いを込めて憲章が作られたのかなと想像しながら読んだ。

今年の夏、五歳の娘と三歳の息子を連れ、小鳥の森にシジュウカラを探しに出かけた。シジュウカラは福島市の木であるケヤキ、花であるハナモモと並んで位置する福島市の鳥だ。あまり意識してみる人も少ないかもしれないが、少し山に入れば市内でごく普通に出会うことが出来る。遠目には地味に見えるが、頭部は全体的に黒く、頬

は白い、背は黄緑がかっており、どこか吾妻山の雪解けや新緑の野山を思わせるような、まさに福島市にぴったりの色味がとても美しい鳥だ。私が小学校低学年ぐらいのときに知り、バードウォッチングにハマりこんだきつかけとなった鳥でもある。小鳥の森は、そんな私の姿を見た父が連れてきてくれた思い出の場所だった。とはいえ、私ももうすぐ四十になるから、訪れるのはかれこれ三十数年ぶりになる。

駐車場に車を止め、ビジターセンターまで歩いていくと、早速歩道わきの木にシジュウカラの番を見ることが出来た。

「あ！いたいた！シジュウカラ！」

子供たちに教えると、どれどれといった具合に探し、木の葉の陰にいる二羽を見つけると、

「ほんとだ！」

と目をまんまるに輝かせて眺めていた。

すぐさま他の場所に飛び立ってしまったけれど、子供たちのはしゃぐ姿を見て、あの時もこんな感じだったなあ…と当時の記憶がぼんやり、所々鮮明に蘇ってきて、懐かしい気持ちとともに、変わらず残ってい

る風景に何か安心感のようなものが込み上げてきてほっこりした。

福島市民憲章には五つの項目があるが、どれも今の福島市に当てはまるものだ。

これまでも市民一人ひとりが日常の中で誰からともなく引き継いできた人情や文化、守られてきた景色。これこそが福島市の魅力だ。幼いころから当たり前のよう感じていた日常の中に特別な思い出がたくさんある。これからも福島市の魅力を忘れないためのチェックリストとして福島市民憲章があるのではないかと思う。

私も親として、福島市民として、まずは身近な存在である家族とともに、福島市の魅力を全身で感じ、たくさん特別な思い出を作っていきたい。そして子供たちが大人になって、ふと福島市民憲章を思い出したとき、すべての項目が丸であってほしいと思う。